

< 機械の共同化に取り組む事例 >

農業機械の共同化の体制整備

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	青森県青森市 <small>あおもりし</small> 下石川 <small>しもいしかわ</small>			
協定面積 62.0ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 496万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	集落の各担当者の活動に対する経費		4%
		農業生産活動等の体制整備に対する経費		34%
		共同取組に対する経費		8%
	その他		4%	
協定参加者	農業者 60人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

下石川集落は、水稻とりんご栽培が盛んな地域である。

本協定では、水田から発生する稲わら処理において鋤き込み以外の利用方法が課題となっていた。

そこで、地域資源の有効活用を図る観点から、りんご園における利用促進を図るため、稲わら収集のためのロールベラーを購入し、共同利用することとなった。

3. 取組の内容

平成 22 年にロールベラーを購入し、約 15ha の水田から稲わら収集を行い、りんご園などに堆肥として活用し、地域資源の有効活用を図っている。



【水田における稲わら収集状況】



【りんご園地における稲わら敷き状況】

[集落の将来像]

農作業の効率化を図るため、農業機械等の共同利用を促進し、集落全体で、効率的な農業経営を目指すとともに、農道・水路管理に必要な機械等の購入、修繕により、集落全体で効率的な管理を行う。

また、集落の担い手となりうる認定農業者の育成を目指すほか、堆きゅう肥の施用による持続可能な農業生産を行なう。

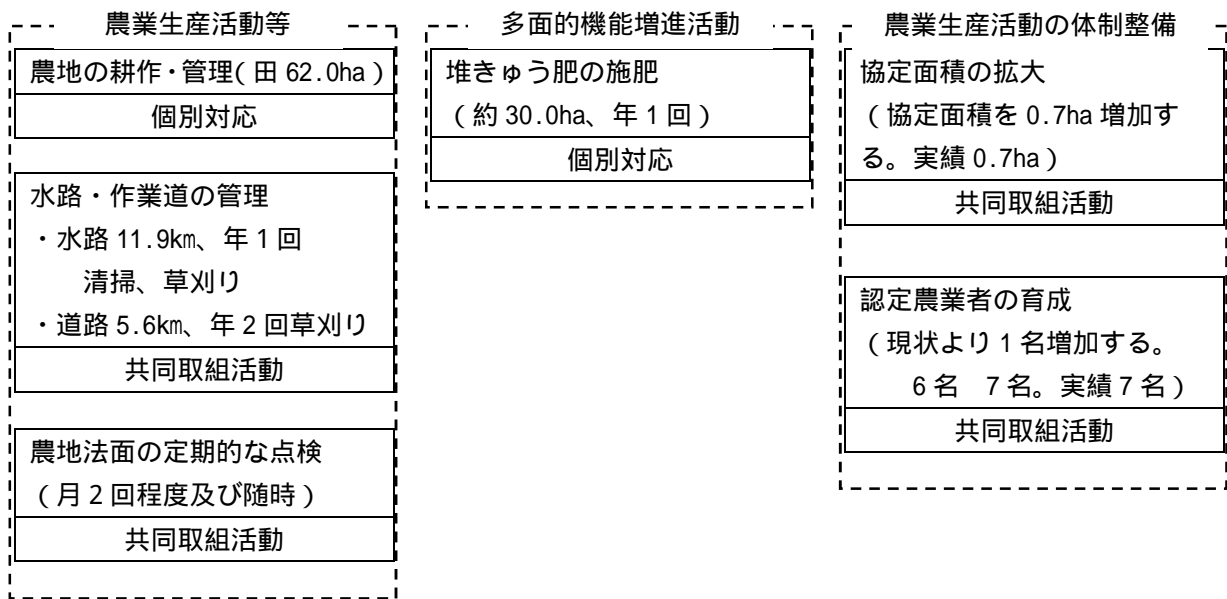


[将来像を実現するための活動目標]

協定参加面積を拡大し、地域の農地の維持を図る。

地域の担い手として認定農業者の育成を図る。

耕作放棄地の発生防止とともに、水路・農道の管理を行うに当たり、草刈を共同機械で行い生産者の労力の軽減を図る。



4 . 今後の課題等

平成 12 年度から本制度に取組んでいるが、高齢化が進んでおり、労働力の低下が懸念される。

そのため、農作業の委託、水路・農道管理における機械化作業の促進が必要であり、担い手の確保や労働力の軽減を図る工夫が必要である。

[第 2 期対策の主な成果]

認定農業者の育成(当初4名 目標5名 実績:5名)

機械・農作業の共同化(当初0 目標9.1ha 実績9.1ha 購入機械名:トラクター)